

日本武士道の敗北

狡知にたけた残忍な性格の米ソ指導者と、やはり中国で大英帝国に目ざわりな動きをする日本に嫌悪感を抱くチャーチル首相が組んでの日本潰しが始まった。国益のために手段を選ばぬ指導者に、仁義礼智信のさむらい日本は手玉にとられ、敵の計画予測どおり急坂を転がり落ちて行く。

弱肉強食の大帝国の権謀術数

帝国主義とは武力により弱国を植民地にして領土の拡大をはかる国家の体制である。

イギリスが先鞭をつけ、フランス、スペイン、ポルトガル、オランダ、ドイツ、ロシアが後を追いつ、百年後れてアメリカ、そして日本が加わった。

アメリカは原住民を殺戮しつづき、メキシコの領土を奪い、ハワイ王国を滅ぼし、スペインからフィリピンを勝ち取り、最後の最大の草刈り場である中国へ向かった。

日本は韓国を併合して、ロシアは蒙古を支配下に収めてやはり中国へ進出した。世界の帝国主義の国家がすべて中国に参集し、「我こそは中国の救世主」と援助協力を申し出ながら、お互いの出方をうかがい、利権獲得の機会を狙った。

中国は清王朝が衰微し各地に軍閥が割拠して無政府状態に近かった。各帝国は租界という治外法権の居留地を設けて自国民を統々と移住させた。租界は最高時、八カ国二十八カ所に及んだ。

領土を蹂躪される中国には外国の横暴を拒絶して跳ね返す力はなかった。強国の力を借りて国を守り国を統一する道しかなかった。

二十世紀に入り中国における権力争いは色合いがはっきりしてきた。米英が「百万ドルしか出せない」

とすると宋美齡が美しい口をとがらせて堪能な英語で「二百萬ドルなければ日本と戦えない、二百萬出してはならぬ」と拗ねれば「しゃあないなあ、二百萬ドル出してやろう」となった。

後に共産党軍に負けて台湾に逃げた蒋介石が莫大な個人資産を貯えていたのは、こうした宋美齡の交渉上手のおかげもあろう。

中国人は阿片戦争で負けてひどい目に合ったイギリスは嫌いだ。他の白人国はそれほ嫌いだ。一番嫌いな朝貢していた属国元はといえは朝鮮であった。

先号で述べたようにアメリカとソ連は「日本絶滅」で意思は一致している。

そしてF・ルーズベルト大統領以下のアメリカの上層部は同じ黄色人種でも日本人を嫌悪するのにならぬ。比して「中国人はかわいい」といって「気分」を共有していた。

クリストファー・ソーン著「米英にとつての太平洋戦争」には、この戦争に蒋介石夫人の宋美齡が果たした役割が大きいとある。

果てはアメリカに留学して大学を卒業した才色兼備の宋美齡はF・ルーズベルトやイギリスのチャーチル首相のみならずアメリカの政府高官や中国派遣の軍人まで魅了した。男たちは宋の言うことなら何でも聞いてやる気になった。

それをよく知っている蒋介石は武器や資金の要求の折衝はほとんど夫人の宋に行わせた。

経営管理講座 309 染谷和巳

日本人捕虜を長期間各地で労役させ六万人を死なせた。カラフトや北方四島などの日本領土を奪い取った。

スターリンの日記には「ついに今、対島の恨みを晴らした。プラボー」と書いてあったそうである。

対島は日本海海戦でバルチック艦隊が全滅した地である。五十年前の恨みを今晴らすことができた。歓喜するその精神は、何でもすぐ忘れる日本人には理解できないだろう。

白人至上主義のアメリカは黒人はもとより黄色人種も毛嫌いだ。が、とりわけ日露戦争に勝った日本人を警戒し敵視した。

一九一九年(大正八年)パリの国際連盟で日本が提案した「人種平等条項」をアメリカのウッドロウ・ウィルソン大統領が反対して廃案にした。

一九二四年(大正十三年)「排日移民法」ができ、日本人の移民は全面禁止になった。当時の日本人のアメリカ移民は年間数百人で、危機的な問題ではないが、大國と肩を並べる一等国になったと自負する日本のプライドを深く傷つける出来事であった。

その後不況克服のためアメリカは共産主義大好きなF・ルーズベルト大統領の指揮で、国が銀行や企業などの民間を管理統率するニュー・ディール政策を実施。この新政策で国中が混乱するが、大統領の権限が現在の社会主義国同様に史上最高最大に上昇した。

これと並行してF・ルーズベルトは日本への石油、屑鉄などの輸

白人国に武士道は通用しない

米ソ首脳が日本絶滅を謀っていたとか、宋美齡のオネダリに男たちが鼻の下を伸ばして応じていたとか、お前は品のないことを言うが、下種の勘繰り「ではないか」と思われる方もいるだろう。

だが政治や外交は生身の人間が行うのであり、日本の武士のごとく高潔な精神は稀有な例であり、判断決定の多くは人間の愛や嫉妬、憎しみなどの感情がベースになっている。

日露戦争で敗れたことを根に持っていたソ連は終戦間際になつて不意に参戦し、日本人男性六十万人をシベリアに抑留(抑留とは聞

情報戦は初めから大差の負け

力は物量の差だけではなかった。通信機器未発達の日露戦争時、日本は情報を重視した。ヨーロッパに情報網を張りめぐらしロシアの動きを正確に把握すると同時に、各国にロシアに協力しないよう要請した。満蒙のロシア陸軍の

出の禁止、ついには日本の資産を凍結して日本を追いつめる。真珠湾攻撃の日。「戦争をしないことを公約にして大統領に当選した」FDR(フランクリン・ルーズベルト)は動ずることなくその一挙一動に自信と統率力を示し、パナマ運河の安否をひじょうに気づかっていた。その夜、FDRが議会の首脳部のもので会見した時には彼ははいらぬと奮っていた。...

それが日米戦争では暗号解読、通信傍受などこちらの秘密は筒抜け。情報戦で大差で負けていた。